

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4076200296		
法人名	医療法人 雅紀会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市秋松 709番地 11 (電話) 0948-21-2201		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成20年7月17日	評価確定日	平成20年8月26日

【情報提供票より】(20年 7月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	12 人	常勤 12人	非常勤 0人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	100,000円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月 5日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.6歳	最低	74歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会福岡第二病院 ・ 桂川歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは広い敷地内に建てられ、和風で落ち着いた雰囲気である。隣には同系列の高齢者介護施設が建ち並び、行事やその他連携を図っている。法人代表の思いである「心の癒し」「残された能力の活用」を管理者、職員が実践に向けて取り組んでいる。ホームの造りにも工夫が施されており、高い天井、広く大きな窓が印象的で、居室にはプライバシーを保てるトイレ、洗面所が設置されている。その中で暮らす利用者の表情は穏やかで、ゆっくりと時間が流れている感覚を憶えるように本人のペースで過ごされている様子である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点はホーム全体で話し合いを持ちできることから取り組みを行っている。評価の意義を職員全員が周知確認することで、サービスの質の向上に繋がっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	改善項目と自己評価の項目を職員全員で一緒に検討した。外部評価の意義も理解することができ、全職員の意識の向上とサービスの質の向上に繋がっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回定期的に開催しており、出席者は民生委員、利用者・家族の代表者、市の担当者や地域包括支援センター職員からなっている。会議の内容としては、ホームの状況報告や出席者其々の立場からの意見を出してもらい、ホームのサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会で意見を聞き取り、ホーム全体で対応し家族との信頼関係を構築している。家族会の出席率が良く、ホームの行事にも家族の参加が多い。また苦情箱を設置しいつでも意見や要望が表出できるようにしている。ホーム便りにて利用者の暮らしが伝え、家族が安心できるよう取り組みを行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の中学生の職場体験学習の受け入れや、民生委員との連携等はあるが徐々に地域に溶け込んでいるが、地域の活動への参加はまだ少ない。定期的に運営推進会議を開催しているのでそれを活用し地域と連携が図られるよう取り組みを希望する。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	開設当初より法人全体の理念があり「心の癒し 残された能力の活用や地域社会との支え合い」を表現している。ホーム全体で理念の実践に向け取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、いつでも確認できるようにしている。朝礼で唱和し会議等でも管理者は職員に伝え、理念に基づいてケアがなされているか話し合っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の中学生の職場体験授業の受け入れや、民生委員との関わりは増えてきているが地域の活動への参加や日常的な交流は希薄である。		ホームの周りは同系列の施設があるが、民家等は少ない環境である為地域に出向いて活動に参加することが少ない。民生委員との関わりを活かし地域の情報を収集し、ホームとして地域の中でできることを見つけ、地域との交流を図るよう希望する。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善項目、自己評価を管理者と職員が全員で話し合い、できていること、検討すべき項目を改善計画シートを作成し取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。出席者は、民生委員、地域包括支援センター職員、市担当者、家族代表、利用者代表、職員等となっている。出席者が其々の立場から意見を出し合い、ホームのサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	支所へ必要に応じ出向くことはあるが、運営やサービス等での相談をしたり、情報交換等をするのは少ない状況である。		運営推進会議に市から出席はあるが、その他での連携は少ない状況であるため、ホームから情報収集の為に発信を行いホームの実情に於いての相談が出来るような関係を構築していく取り組みを希望する。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	不定期ではあるが、内部研修を行い職員が学ぶ機会を作っている。今後も必要に応じ研修を予定している。パンフレットの準備はあり、必要な人へ説明できるようにしている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の近況報告をし必要に応じ電話連絡を行っている。また、ホーム便りを発行しホームの様子や行事の案内等を行っている。金銭管理に関しては直接ホームで出納帳にて報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員に家族が意見や苦情を訴えやすい環境を作り、要望等はいつでも聴き取っている。家族会の出席率が良く気軽に意見要望を出して頂ける場を設けている。玄関には苦情箱を置いている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同系列の施設への異動がまれにあるが極力異動の無いよう配慮している。管理者が移動する場合は直接家族へ報告している。職員の離職等による引継は管理者が新人職員に付き、他の職員もフォローし、利用者への影響を少なくする配慮を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用にあたっての条件は特に無い。採用に関しては、法人とホームの管理者が面接を行っている。働きながら本人のスキルアップの勉強する機会を設けている。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	入社時に法人全体にて研修がある。この研修の内容を元にホームでもミーティングにて伝え人権教育に取り組んでいる。		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部研修は案内し研修に参加する機会がある。それを持ち帰り内部研修を行っている。ホームでの研修に関しては年間計画は特に立てておらず必要に応じ勉強会を開いている。		職員は自由に希望する研修を受けられるようにしているが、課題別や必要な事柄をリストアップし年間計画を立て実施することでより一層職員のスキルアップに繋がればサービスの質の向上となるのではないだろうか。
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他の事業所との管理者同士の交流の機会はあるが、ホーム同士の交流の場や職員同士の交流の機会はない状況である。		他のグループホームと情報交換を行うことで、ホームの強み・弱みが明らかになったり職員同士の交流にて様々なネットワークができ更なるサービスの向上に繋げること出来る。近隣のホームに話しを持ちかけ更なる交流をはかっては如何だろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に、利用者、家族の見学とホームからの訪問を必要に応じ繰り返し、本人と顔見知りになるようしている。本人、家族の意向を充分聴き取り不安の無いよう心がけている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを大前提とし、職員は暮らしの知恵等を教えてもらい姿勢を持ち、利用者と一緒に日々の生活を共に送っている。ありがとうございます、助かりました等の言葉が利用者、職員共に自然と出る関係である。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望を聴き取り、本人のペースに合わせている。把握の困難な利用者に関しては、職員等からの言葉かけに対する反応を確認したり、家族から情報を収集している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が、本人家族の希望、意見を聴き取り、主治医の意見等も考慮し職員全員で会議を行い計画を立てている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しを行い、家族の意向を聴き取り、新たな計画を立てている。利用者の状態の変化、必要性を担当者が確認、評価しており計画の変更はスムーズに実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に沿い行きつけの美容室や個別の買い物への支援を行っている。また、個別の外出も家族の了解の元にて可能であり、利用者が自由に過ごせる工夫をしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医の希望があれば、その主治医と連携を取っている。協力医へ変更希望があれば変更している。受診の付き添いをおこない本人の状態を把握している。協力医からの往診もあり、連携を図っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を必要に応じ家族へ説明し同意書を交わしている。ホームは、最期をできる限りの支援、対応をしていくことは全員で共有している。利用者の状態に応じその時々で家族と確認し対応している。		
1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の思いを理解し、個人の尊厳を守ることをミーティング等にて話し合っている。面会簿は列記ではなく枚づつ記入してもらっている。各居室に他の利用者が入らないよう配慮をし、個人のプライバシーが保てる工夫をしている。個人記録や固有名詞の書かれたものが目に付く場所に置いてある。		利用者への配慮は十分なされ、和やかな日々が送られていることが窺い知れる。個人記録や情報が目に付くところにある為、個人情報の保護から書庫に保管すると共に情報は目に付かない場所に移動されることを希望する。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日ごろの会話や表情を汲み取り、可能な限り本人の希望に沿えるよう支援している。その日の職員と利用者の会話にて、買い物や散歩等自由に過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力に応じ盛り付けや後片付けを職員と一緒にしている。食事中は静かな雰囲気である。利用者は其々の力を活かし食事をしており職員が何気なく介助を行っているが食事を一緒に摂る機会が少ない。		利用者同士で食事をし静かな時間ではあるが、職員とテーブルを同じにし会話をしながらの食事でも和やかで良い雰囲気であり、利用者の状態や嗜好もわかりやすいと思われる。職員が1人でも一緒に食事をするとう家族のような関係がより深まるのではないだろうか。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	概ね曜日や時間の設定はあるが、本人が希望すれば、その時々にて入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じ役割があり洗濯物たたみ、食事の後片付け等楽しみながら行っている。利用者の特技を活かし書道や楽器の演奏等もある。また、表現しづらい利用者へは昔の話を聞き取り楽しみごとを探す工夫をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩は頻繁に行っている。また、個人の要望により、外食やドライブの支援も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、職員の見守りにて支援している。居室の施錠は本人の希望で中から施錠する利用者もいるが、緊急の場合は外から開錠できるようになっている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回避難訓練を実施し、消防署も立会い指導を受けている。夜間想定も繰り返し行い、連絡網等完備している。隣接の施設からの応援体制は確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立を立てている。食事摂取量を記録し本人の健康状態の目安にしている。水分摂取は本人状態に合わせ摂取できるよう支援し、必要に応じチェックしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした玄関は大きな窓があり、自然の光が入り心地の良い空間である。利用者が集うリビングには季節感のある飾り物や利用者が作成した絵等が飾られている。台所の暖簾や和室の間仕切り先家庭的な印象を受けた。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所以前に使用していた家具や小物が配置され、個人の過ごしやすい環境となっている。部屋にトイレや洗面台の設置もあり換気にも工夫がされている。		